

# 飼い主がいらない猫の去勢・避妊手術を推進する取り組み

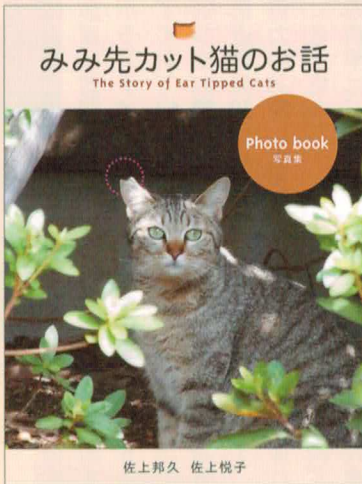
飼い主が見つからず、殺処分される猫があとを絶たない現実。その悲劇をなくすためのしくみを生み出し、日々活動している「どうぶつ基金」のさまざまな取り組みをご紹介します。

撮影/後藤さくら



何の罪もない猫の命が軽々と奪われることのない世の中になりたい――

去勢・避妊手術ずみの印として、「どうぶつ基金」が推進している、耳先のV字カット。耳が桜の花びらのようなので「さくらねこ」と命名



耳先をカットした猫のPRで写真集も出版。印税はすべて活動費に

佐上邦久 佐上悦子

不幸な猫を増やさないため無料で去勢・避妊手術を

毎年全国で十数万匹の猫たちが、飼い主を見つけれず、殺処分されています。その多くが子猫であることから、殺処分数を減らすにはむやみな繁殖を食い止めることが必須です。

「ここ数年、ノラ猫を住民が協力し合ってお世話をする『地域猫活動』が各地で広まっています。それも有効な手段とは思いますが、さまざまな住民の意見をまとめるのには時間がかかります。その間に子猫はどんどん生まれ、増えていく……。ですから、一刻も早くノラ猫が子猫を生んで増やすのを阻止する必要があるのです。」

そう語るのは、公益財団法人「どうぶつ基金」理事長の佐上邦久さん。昭和63年に設立された財団を平成18年に引き継ぎ、「どうぶつ基金」と名称を変更。動物と人の幸せな共生を願った創設者の意を受け、「TNR」の推

公益財団法人どうぶつ基金  
理事長・佐上邦久さん(左)、悦子さん



昭和63年、動物と人が幸せに共生できる社会づくりを目指して設立された財団を、平成18年に佐上さんが引き継ぎ、妻・悦子さんと運営しています。各地の地域ボランティアや行政に働きかけて、全国で活動を展開中

進を中心とした動物愛護事業を行っています。TNRとは、ノラ猫を捕獲(Trap)し、去勢・避妊手術(Neutral)をし、元の場所に戻す(Return)活動のこと。これによって、飼い主のいない猫の増加を食い止め、罪なき命が奪われずにすむようになります。地域猫活動の一環でTNRが行われることもあります。しかし、去勢・避妊手術にはお金がかかります。行政が一部を負担していることもあります。ほとんどはボランティアの持ち出しで行われているのが現状。ボランティアの負担をなくせば地域の猫の手術が早く進むだろうと考えた佐上さんは、飼い主のいない猫が無料で手術を受けられるしくみを考えたのです。



「さくら耳は愛され猫のしるし」  
 幸せなさくらねこを  
 これからも増やしていきたい…



猫にはそれぞれ縄張りがあるため、手術後は元の縄張りに戻すことが大事。「末長く幸せに暮らせるよう祈りながら捕獲器を開けています」(佐上さん)

昨年冬、石垣市でTNRを実施。獣医師、市の職員、地元のボランティアと一丸となることが成功の秘訣



手術件数の増加とともに  
 殺処分数が減少している

手術を無料で行うには、まず各地で活動している地域のボランティアが「どうぶつ基金」に申請。「どうぶつ基金」から発行されたチケットを協力動物病院に持参すれば、無料で手術が受けられます。動物病院には後日「どうぶつ基金」が猫の性別・匹数に応じて費用を支払います。「協力動物病院は現在全国に20軒あります。趣旨に賛同し、この事業に限りボランティア価格で手術を行ってってくれています。当初はツテを辿ってお願ひしていましたが、最近は見知らぬ獣医さんからも協力のお申し出があるのですよ」(佐上さん)。

こうした手術費用は、おもに寄付金で成り立っています。そのほか臨時の助成を受けて行うことも。平成24年度は当時の郵便事業株式会社から年賀寄付金500万円が配分され、その分多くの手術を行えたそうです。

「平成16年度から平成24年度までに6200匹の手術を行い、TNRの啓発に努めてきました。環境省によると、猫の殺処分数は23万匹(平成16年度)から半

数近くの13万匹(平成23年度)まで減少。TNRの効果を実証するデータと手応えを感じています」と佐上さん。実際、この活動は一般社会に利益をもたらすと高く評価され、「どうぶつ基金」は、平成22年、内閣府から公益財団法人の認定を受けるまでになりました。

耳先のカットが  
 猫の負担を減らす

去勢・避妊手術の際に必ず行っているのが手術すみの猫の耳先をV字にカットすること。この印がないと、手術すみの猫が再び捕獲され、お腹を開かれる恐れもあるのです。実際、TNRで動物病院に連れて行かれた猫の約3%は手術すみだったそう。猫に余計な負担をかけないために誰でもわかる印が必要、と佐上さんはいいます。

耳先カットは麻酔をかけて行うので、猫に痛みは与えませんが、それでも「かわいそう」という声は寄せられます。そのイメージを払拭するため、佐上さんは耳先カット猫を耳の形から「さくらねこ」と呼ぶことを提案。

「この呼び名は、今、一緒にTNRに取り組んでいる沖縄県石垣市の市長と考えました。石垣市は日本でいち早く桜の開花宣言をする場所。桜前線のように、さくらねこも「北上」し、日本中に広がることを願ってやみません」(佐上さん)。

猫のために  
 何ができるの  
 だろうか

「さくらねこ」は、猫の幸せを想う人の手によって生まれるもの。「さくらねこがたくさんいる街は、動物と人が共生できている地域といえますね」(佐上さん)



我ら、  
 さくら  
 ねこ!



TNRをした場所に赴き、その後の様子を確認することも。「猫たちの幸せそうな姿が原動力になっています」(佐上さん)



# 「どうぶつ基金」と行政の取り組みの例

最近とくに力を入れているのが行政との取り組み。  
ここではその様子をご紹介します。

ノラ猫をめぐる  
問題解決に向けて  
大阪府堺市と連携

大阪府堺市にある大泉緑地は、ノラ猫が多く、心ない人に虐待されたり、猫を捨てられるなど多くの問題を抱えています。そこに所長として着任した浅野正行さんが「どうぶつ基金」に相談。昨年9月から計4回TNRを行いました。

手術後の猫たちを元の縄張りに戻すため、もともと園内で猫のお世話をしていたボランティアから事前に話を聞き、猫マップなどを作成しました。当日は、公園の職員や園内のボランティアと猫たちを一齐に捕獲。手術場所には、堺市から設備が整った動物指導センターを提供してもらいました。TNRに充実した施設を提供してもらえるのは行政ならではの、と佐上さん。手術後、猫たちは、元の場所ですぐに暮らしています。



活動当日、捕獲した猫を見守る浅野所長。捕獲器は、園内に使い捨てされたパーベキュー用の網を再利用したもの

公園事務所と、園内で猫のお世話をするボランティアの連携もばっちり。「直接苦情をいわれることが少なくなり、お世話しやすくなった」と喜ばれているよう



捕獲することができず、去勢・避妊手術を施せなかった猫も。「今後の課題です」（佐上さん）



園内の掲示板には「どうぶつ基金」作成のTNR推進ポスターが。しっかりした協力関係が築かれています

避妊手術をすませ、耳の先をV字にカットされたさくらねこ。写真の猫はロテムちゃん。地域のボランティアによって名付けられました



猫たちを温かく見守る雰囲気生まれ、安心して設置できるようになった猫ハウス。人と猫の共存のための配慮から目立たないよう茂みに

今回TNRを実施し、発情期の鳴き声や糞尿のニオイなどへの苦情が少なくなりました。また、園内に猫を捨てにくい雰囲気ができ、捨て猫の数が半減したのも大きな成果。今後も、園内のボランティアさんや周辺地域の住民たちとともに、末長く取り組んでいきたいです。

おはなしをうかがったのは



大泉緑地管理事務所(前)所長 浅野正行さん

公園が人と猫が幸せに共存できる環境に

耳先をカットした猫が公園内のあちこちでのんびり過ごしています





## 殺処分数ゼロに向けて 行政との提携を強化

当面の目標は5年以内に全国の猫の殺処分数をゼロにすること。その達成に向けて、ボランティア価格で去勢・避妊手術をしてもらえる動物病院の数を増やす必要性などまだ課題はあります。また、多くの行政と提携することも目指しています。行政は動物愛護センターなどを管理しており、手術に必要な設備などが整っていて、非常に心強い存在。とくに、「どうぶつ基金」、行政、地域ボランティアの三者協働体制での取り組みを増やしていきたいのだとか。状況によっては、「どうぶつ基金」に無料手術を申請してきたボランティアにその地域の行政から申請してもらえないか、行政担当者を説得するよう頼むことも。する

## 殺処分数がゼロになり、 猫と人が幸せに暮らせる ようになることを信じて――

と、地域ボランティアと行政の連携が強化され、TNR後も一体となって猫たちを見守ってくれるのだとか。

最近では行政からの依頼が増えています。昨年9月、園内のノラ猫問題に頭を抱えていた大阪府にある大泉緑地管理事務所の所長から依頼を受け、約60匹の猫の手術を無料で行いました。わしくはP91参照。また、昨年末には、島の生態系を破壊するノラ猫問題の解決に向け、石垣市長の依頼で、171匹に対してTNRを行いました。一つひとつ結果を出すことによって、次に繋げていきます。

猫と人の幸せそうな姿に  
日々支えられている

「飼い主のいない猫への無料去勢・避妊手術」など新たななしくみを軌道にのせるには苦労も尽きません。しかし、幸せな猫が増えていくのを実感することが佐上さんの力になっていいるのだとか。さらには、猫を愛する人の心を救うことにも繋がっていると知り、嬉しくなることも。

「先日、一緒にTNRをした動物愛護センターのスタッフから『かけがえのない命を奪わずにすむようになるのは心から嬉しい』と声をかけられたのです。そうしたセンターのスタッフは動物好き。なのに、殺処分の任により精神的ショックを受けています。猫を取り巻くすべての人が幸せになれるのなら意義深く感じます（佐上さん）。

目指すのは、猫、そして猫を愛する人も嫌いな人もみんなが共生できる社会づくり。その過程で悩んでも「殺処分数ゼロ」という明確な目標があれば、やることは自ずと見えてくる、と佐上さん。そんなまっすぐな想いを源に、「どうぶつ基金」は今日も猫と人を繋いでいます。



約60匹の猫が暮らしている某市の海辺。ボランティアが自主的に去勢・避妊手術を進めています。猫の数が多く、手術費用の負担が大きいそう。少しでも負担を減らすため、一緒に取り組めないか市と交渉中

## 猫のために 何ができるか

### 問い合わせ先

公益財団法人どうぶつ基金

info@doubutukikin.or.jp

公益財団法人どうぶつ基金の  
活動内容については下記の  
ウェブサイトにも記載されています

ウェブサイトURL

http://www.doubutukikin.or.jp/



環境省後援で「いのちつないだワンニャン写真コンテスト」を毎年開催。拾われるなどして今は幸せに生きている猫の写真を集めて審査しているそう。今年も7月末までホームページから応募可。その優秀作品が見られる写真展にはのべ4万人が来場し、涙しました